

土日の部活動地域移行からひと月

「土日の部活動、完全地域移行」から、ひと月が経過しました。これまでの学校部活動からすると、不都合なことが感じられるという声も多いのが現状です。生徒の順応は早いですが、昭和・平成の部活動にどっぷり漬かった大人の方は慣れるのに時間がかかりそうです。

ところで、部活動地域移行は全国的に急ピッチで進められており、後戻りはできません。課題も結構出てきていますが、ここでは地域移行実施後のプラス面での意見を紹介します。

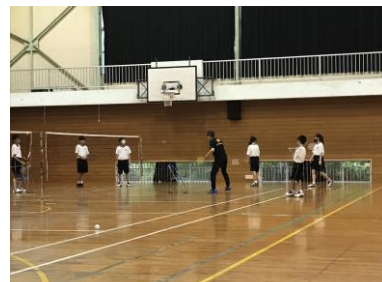
○土日の活動場所が確実に確保されており、その手間が省けたし、有料で借用することもなくなった。

○指導スタッフが増え、負担が少なくなったし、きめ細かな指導ができるようになった。

○人数が増えて、試合にも出れるし、ゲーム形式の練習もできる。

○友達が増えた。

一部の種目には当てはまらないこともありますが、地域移行の成果は、少しずつ着実に増えてきています。土日の部活動を通して、長与地区の子供たちの活動を支え続けていきたいと思えます。



部活動地域移行と時代背景

文部科学省・スポーツ庁の通達により、令和5年度から部活動の地域移行が全国的に進められます。令和になり、学校部活動はこれまでにない大きな変革期を迎えようとしています。

昭和後期の部活動といえば、「根性優先」「挨拶・返事は大声で」「練習中の飲水はだめ」「筋トレは、腹筋とうさぎ跳び」という時代でした。先生と子供任せで、保護者の応援もごくわずかだったと思います。

平成に入ると練習内容も科学に裏付けされた要素が積極的に取り入れられ、ストレッチや体幹トレーニングが流行しました。保護者会のサポートも多くなり、組織として部活動を支えるのが当たり前になってきました。また、部活動を経験した保護者が増え、目の肥えた保護者が多くなり、指導者もプレッシャーを感じたものです。学校は、平成14年から土曜日が完全に休日となり、部活動担当教師の土日休日返上での指導や生徒の体力的な負担など問題として取り上げられるようになってきました。やがて平成も後半になると平日・土日に休養日を設定するなど時代の流れによって変わっていききました。

今日、学校現場では少子化による部員不足が進み合同チームでの大会参加や教員の働き方改革の推進を受けて、部活動を学校から切り離す取り組みが始まりました。土日の地域移行を皮切りに将来的には、平日の部活動も地域移行へと進んでいくことになりそうです。

NSC 入会募集継続中 新1年生の皆さんの入会を歓迎します。

➡ NSC（地域スポーツ活動）への入会は、QRコードから手続きを行うことが可能です。

部活動地域移行コーディネーターを4月から配置しています。

☆月水金は、教育委員会勤務及び中学校巡回、土曜日は地域スポーツ活動を巡回しています。

☆学校と地域スポーツ活動のつなぎ役を行います。気軽にお声かけください☆

NSCの入会
フォーム

